

自己評価票

自己評価は全部で101項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	23
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	8
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
合計	101

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 加治川の里
(ユニット名)	あやめ棟
所在地 (県・市町村名)	新潟県新発田市向中条2843番地1
記入者名 (管理者)	小川 多美子
記入日	平成20年3月31日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	当施設独自の理念を掲げており、各部署の目立つ所に貼ってある。	利用者一人一人がその人らしい生活が送れるような理念を作りあげている。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	棟内の目立つ場所に理念を掲げており、一人一人が理念を実践できるように取り組んでいる。	理念を玄関・廊下・事務室・生活記録に貼っており、いつでも見られるようにしている。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	家族会や面会時にわかりやすいように説明している。	広報を作成しており、回覧版で回している。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩や畑をしている際に積極的に地域の人に話しかけて、施設に立ち寄ってもらえるよう、声をかけている。	地域の方たちに職員や利用者の顔を知ってもらえるよう、地域の行事に参加している。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域で行われている行事に利用者と職員で参加している。	盆踊り大会への参加や、区長さん、地域の方々が植えているコスモスを見に行ったりしており、地域の人と交流している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成のために、実習生の受け入れを行っている。	0	地域の方々を対象に、認知症の人との接し方などを知る機会を増やしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を割り振って各職員が取り組むことで、各自振り返ることができ、今後の業務に活かしている。		自己評価や外部評価で改善するところが見つかった際には、職員で話し合い、改善を行っている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、地域の代表(前区長)、市のケアマネージャー、利用者の家族、利用者代表1名と管理者、計画作成者で会議を行って、意見交換をしている。		運営推進会議で施設の状況の話し合いをしたり、地域の活動の情報も教えてもらっており、会議の内容は玄関に貼りだしている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者と交流をもつ機会がない。	0	市町村担当者と交流を図る機会を積極的に作り、サービス向上のためにも働き掛けていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関しては、管理者が主にすすめる為、他の職員は周知していない。	0	成年後見制度について今後、勉強会や研修に参加し、理解を深めていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は介護をするにあたって、虐待にならないか、複数の職員で話し合って支援している。		施設内で、2つの棟を行き来する職員がいることで、違う視点で物を見て、虐待がないようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約をする場合には、管理者は家族に不安がないよう、密に連絡や話し合いを行っている。		契約時には、十分に説明を行い、家族が納得した上で契約等を交わすようにしている。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの不満等は、言葉やその時の態度から察知して、訴えを話しやすい雰囲気作りをしている。		苦情、意見があった際には職員間で話し合い、よりよい環境になるように努力している。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日々の状態や預かり金の残高等の報告は、面会時に説明を行ったり、計画作成者が電話で状況説明を行っている。		管理者が月1回、請求書と一緒に日々の状態報告を兼ねて、家族に手紙を書いている。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会などで、意見があるかどうか聞いている。また、意見があがったら職員で話し合い、改善に努めている。		家族会を年1回開いており、家族同士で話し合える場を作っている。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務に関することで不具合や要望がある時には、職員会議を開いて、職員から意見を聞いている。		会議で決まった業務に関する事項は、すぐに実行できるよう申し送りや会議録などで連絡を行うようにしている。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状態の変化や、受診日を決める際は調整を行っており、受診等でやむを得ず職員が一人になるときは、両棟一緒に合同レクリエーションを行っている。		月・水・金・と日中3人体制が取れるように勤務を組んでおり、3人の時には、受診・買い物に行けるようにしている。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者にとって信頼関係を築くために密に関わったりしており、止むを得ず異動がある際は、新しく入る職員への引き継ぎをこまめに行っている。		引き継ぎする職員に対して早く馴染めるように、利用者との関わりを多く持つように努力している。
18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	マニュアルを作成しており、台所、浴室等にマニュアルを貼って、いつでも見られるようにしている。また、マニュアルをひとまとめにしているファイルもある。		その時の状況によってマニュアルが合わなくなった時、職員で話し合い、見直しを行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>全職員が必ず1回は研修に行けるよう計画を立てて、講習や研修を受けている。</p>	<p>研修後には必ず報告書を記入し、全職員が閲覧できるようにし、研修の報告をかねて会議で勉強会を行っている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者・職員は、地域の同業者との食事会に参加することで、情報交換を行っている。</p>	<p>地域の同業者からのサービス向上の為の情報は、他職員にも伝わるように会議や毎日の申し送りの中で情報を伝達している。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>研修や定期的に他の施設の職員と交流が持てる場がある。</p>	<p>同じ施設内の職員同士で話したり、人間関係が良くなるよう、職員がまとまる事ができるように努力している。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、職員一人一人の仕事ぶりなどを見るため、ホームに来て各職員と話している。</p>	<p>各職員の努力などを考慮した上で賞与に反映している。</p>
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面接前に家族より利用者自身の不安等を聞いたり、面接の際には何気ない会話の中で、不安や訴えを聞き出し、受容するようにしている。</p>	<p>利用前には必ず施設を本人も一緒に見学することで、雰囲気を知ってもらい、利用しやすい環境作りをしている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談を受けた際、家族の介護に対しての不安や、利用者に対しての要望などを聞いている。 また、施設を見学してもらうことでどういう所か知っていただけるよう配慮している。</p>	<p>家族の要望などは、可能な限り実現できるように職員と話合っている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	相談時に本人にはどのようなサービスが必要か、他の施設や医療機関とも連絡を取り、家族の要望に答えられるようにしている。		こまめに連絡を取り、今必要なサービスを見極める。
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	サービスの利用前に訪問回数を増やしたり、遊びに来てもらったりして、安心感を持ってもらう。		今までの立場との違いから混乱するときは、話を傾聴し、納得するまで説明するように努めている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	職員と利用者が共に作業し、会話の中から得意なことなどを見出している。		得意な作業の参加に声掛けなどで誘導する。「ありがとう」の感謝と労いの言葉をかける。
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	家族の思いをくみ取りながら、利用者の情報の共有に努め、職員も家族と同じ思いで支援していく。		家族が利用者の現在の状態を常に把握できるように密に連絡を取っている。
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	これまでの生活歴を把握し、その家族に合った対応をしている。		本人、家族の状態を見ながら外出や外泊で家族と一緒に過ごす時間が持てるよう、促している。
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	利用者の過去の話の傾聴し、引き続き交流ができるよう支援する。		馴染みの人も連絡が取れれば誕生会などの行事に参加してもらう。
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	利用者同士の関係が良くなるように見守ったり、職員が間に入ったりしている。		できる作業を分担し、利用者同士が支えあい、協力し合っ生活をして行く。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居者とも連絡をとり、現在の状態を把握している。		退居した利用者にも気軽に遊びに来てもらう。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から把握に努め、それとなく確認している。		利用者本人に生活していく上で、希望・不安を傾聴し、ケアプランに活かしている。 意志表現が困難な利用者に対して家族にどのような希望があるか聞いている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所以前の利用者の生活パターン・病歴・サービス利用状況について、家族に話を聞き、確認を行っている。		日頃の会話や家族などの話を聞き、一人一人の生活歴を知るよう努力し、日頃のケアに生かすようにしている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個別に生活記録を作り、1日の様子を記録し、生活パターンを把握している。		一人一人の生活パターンを理解し、把握に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族が日頃の関わり方などを聞き、介護計画作成時に活かしている。		ミーティングを開き、意見・情報の交換を行い、介護計画を作成している。 利用者に変化が生じた場合はすぐに家族に連絡し、報告している。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の身体・精神面で変化が生じた時にはすぐにケアプランの変更を行っている。		変更したケアプランは必ず家族に説明し、納得した上でサインをもらっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子を記入できる生活記録を活用している。		生活記録の中に一人一人のケアプランを一緒に入れ、すぐに確認できるようになっている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じて通院支援・介助を行っている。また、急な外泊等にも対応している。		家族が希望する場合、提携医と連携しながらターミナルケアも行っている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者とともに近隣の小学校を訪問し、交流を行っている。		ボランティアの受け入れを随時行っている。避難訓練を利用者を含めて行い、消防署の協力をもらっている。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネジャーやサービス事業者と連絡を取り、利用者の支援を行っている。		月に1回、床屋さんに来てもらい、希望者には利用してもらっている。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2か月に1回、運営推進会議を行い、参加してもらっている。	0	連絡を密にしていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医が月に1回、往診を行っている。		家族・本人の希望により、提携医以外の医療機関を受診する場合は、職員が付き添いを行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の中には、定期的に専門医に受診している方もおり、治療を受けている。		受診の際には職員が付き添いをしており、相談などを行っている。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	提携医に利用者の状態が変化した場合、すぐに報告し、指示をもらっている。		併設しているデイサービスの看護師に急変した場合、すぐに連絡し、対応している。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した時に病院側にすぐに情報提供を行っている。		入院中も職員が利用者の状態把握のため、頻回に面会を行っている。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期の在り方について職員会議をし、全員で情報を共有しケアの方針を決定している。		家族に状態を理解した上で、今後どのように対応していくかを話しあっている。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	提携医・職員間で話し合い、ターミナルケアを行っている。		昼夜において急変した場合にも対応できるようにマニュアルを作成し、職員が把握している。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他施設へ移る際、情報提供書を作成し、移行先への情報交換を行い、連携を心がけている。		退居後にもなじみの職員が訪問し、本人と話したり、移行先の職員へ継続的に支援が受けられるように情報交換を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング時に職員の意識向上を図るとともに、利用者への対応の仕方を確認している。	声掛けをする際は丁寧な言葉かけを行っている。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	利用者の望む生活に合わせるような支援を心がけ、その人の感じている不自由を減らすことができるように支援を行う。	買い物や外食の時のメニュー選びなどは、自己決定できるように支援している。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の日々の状態に合わせて無理をしないように支援している。	一人一人の身体的状況に合わせ、買い物や散歩など、希望に添えるように支援している。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	季節に合わせて衣服の提供を支援している。	月に1回、床屋さんが来るので、希望者は散髪を行っている。利用者本人で衣服の着替えができない場合は職員が介助し、行っている。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の意見も取り込み、メニューを作成したり、職員と利用者が同じテーブルを囲み、楽しく食事ができるよう、雰囲気作りも大切にしている。	個々にできる役割をつくり、食事の準備、片付けを一緒に行っている。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々の好きな食べ物を把握し、提供している。	煙草を吸う利用者は火の扱いを管理して介助している。飲酒する利用者は希望があった時に随時介助している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の排泄パターンを個々に把握し、トイレ誘導を行っている。		トイレ誘導の際、立ち上がりが困難な場合は介助を行っている。 排泄の際、衣服、下着の汚染があった場合、すぐに交換を行っている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴をする際は必ず本人に確認を取り、入浴してもらっている。		入浴の拒否があった時は、時間を置いて再度声掛けをし、気分を変えて入浴を促している。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者が寝具の整理ができない場合、介助をしている。		就寝時間を決めず、個々の生活パターンに合わせて本人の意思を尊重している。 季節に合った寝具の調整をしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸・裁縫・書道など利用者の得意なもので気晴らしや、調理・洗濯物干し・掃除など、役割を持ち、生活している。		作業後には感謝の気持ちを伝えるようにしている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができない利用者については職員が管理し、必要に応じて介助している。		本人でお金の管理をしたいという希望がある利用者は、おこずかい帳の記入を介助し、すぐに残金が確認できるようにしている。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物希望する利用者に職員と一緒に外出し、付き添っている。		帰宅願望の利用者には、ドライブに出かけたり、散歩に行ったり、精神的に安定するよう支援している。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節感を味わってもらえるように月に1回、外出する機会を作っている。		利用者に外出の希望があれば聞き、計画に取り込んでいく。 その際には職員の調整を行い、なるべく多くの職員で介助を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者より、電話したいと希望があった時には介助を行い、電話している。		グループホームに利用者あてに手紙や小包がきた時には必ず本人に手渡ししている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	毎日面会でき、居室・リビングなど、好きな場所で、家族・知人等と過ごすことができる。		お茶・コーヒーなども提供し、和やかに過ごせるように支援している。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の自由な行動を尊重し、職員間で共有認識を図っている。		ミーティング時に職員間で話し合い、身体拘束をしないケアを行っている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は個人の状況に合わせて居室の施錠を実践している。		利用者の役割として、夜間のみ、自ら鍵の開け閉めを行っている場所がある。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者一人一人の行動パターンを把握し、常に人数確認を行っている。		常に利用者が見渡せる場所で仕事等を行っている。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者が使用する状況などを確認し、その場に応じた対応をしている。		作業するときは職員が関わりながら行っている。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止について日々、利用者の状態の把握を職員間で行っている。		内服確認や喫煙者への対応等、確認を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変や事故発生時に備えて全職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	0	職員間での勉強会を行いたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や地震、水害等の災害時に昼夜問わず、利用者が避難できる方法を身につけ、地域の方の協力が得られるよう、働きかけている。	0	避難訓練をもう少し増やしたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人一人に起こり得るリスクについて、家族等に説明している。 抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		利用者がより良い生活が送れるよう、家族からの意向を踏まえ、対応している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	変化があった時は管理者に報告し、受診等を行っている。		利用者の体調等を観察し、申し送り簿に細かく記入し、全職員で情報を共有し、対応している。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋や薬辞典を活用し、本人の体調等を観察する。異常や変化が見られる時、提携医に報告している。また、配薬ミスがないか、チェックしている。		服薬時は本人に手渡し、飲み込むまで見守っている。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材の工夫や毎日の体操・水分補給を行い、自然排便ができるよう取り組んでいる。		排便チェックを行い、便秘が続く場合には、提携医に相談している。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行い、磨き残しのある方には介助を行っている。		就寝前に義歯を預かり、職員が洗浄剤に浸し、管理している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事量や水分量を記入し、職員間で情報を共有している。		摂取量が足りない時には、間食や補助食品等で補っている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり、実行している。		うがい・手洗いの励行、インフルエンザの予防接種、ディスポグローブの使用を徹底している。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルがあり、実行している。		布巾・まな板の消毒、冷蔵庫の点検を行っている。食材の発注の回数を増やし、在庫品がないようにしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周囲に植木や草花を配置し、季節感を出している。		玄関に掲示物や施設情報が開示してある。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓ガラスにシールを張ったり、カーテン・ブラインドや室内装飾等に配慮している。		利用者が制作した大カレンダーを掲示している。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファやテレビを設置して、思い思いに過ごせる様、空間作りをしている。		玄関や廊下、浴室等にも長椅子を設置し、仲の良い利用者同士でくつろげるスペースを確保している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや、好みのものを活かしている。 本人が居心地良く過ごせる工夫をしている。	0	より安心し、心地よく過ごせるよう、職員間で話し合い、工夫していきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気や温度調節は、職員がこまめに行っている。		温度・湿度計を設置し、確認を行い、調節している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は回廊で、十分に広く、手すりがあり、車椅子でも安全に、かつ圧迫感もなく過ごすことができる。	0	広い回廊で歩行訓練を促していきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	無理強いをせず、本人のできる事を支援している。 (調理、貼り絵、縫物、ぬりえ、たたみもの、レクリエーションなど)		棟内に表札等を付け、分かりやすい様、工夫をしている。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑を作り、利用者が楽しみながら作業できるような環境を作っている。		天気の良い日には芝生にて体操・レクリエーションなどをしたり、パーベキューや流しそうめんなどを行って楽しんでいる。

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	0	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	0	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	0	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	0	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
		0	利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	0	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	0	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	0	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
		0	たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
		0	少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	0	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	0	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	0	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・存在役割を呼び起こし、家事という役割を通して安定した人間関係を築き、共感できる生活を送る。
- ・レクリエーションメニューの用意、同じ時間を共有し合う共同体の維持
- ・少人数の安定した生活（日課、入浴、行事等）スタッフと利用者との間に安定した関係がある。
- ・環境の整備（衣・食・住）の工夫と利用者の要望を取り入れ、清潔で安心して生活ができる配慮がある。